

あきほ

第10号

2011年 9月



ふれあい看護体験(5月13日)



ぼく・わたしのかんごしさん(院内展示)

目次

特集「東日本大震災DMT・日赤救護活動体験記」……	2
「ちょうかいネット」運用状況……………	4
あなたを支える地域連携クリティカルパス…	5

まだまだご用心食中毒……………	6
医師異動……………	7
病院からのお知らせ……………	8

特集 東日本大震災DMAT・日赤救護活動体験記

3月11日に発生した東日本大震災。東北地方の太平洋側を中心に甚大な被害をもたらしました。日本海総合病院では、関係機関から要請を受け職員を被災地へ派遣して救護活動を行いました。今回の特集は、被災地で活動をした職員の体験記をご紹介します。

日本海総合病院 腎臓内科

小山 雄太

3月11日、当直明け、午後外來の最中に地震発生。「宮城のほうに震度7」という情報が流れ、DMATの参集拠点病院の一つである仙台医療センターに向った。途中、立川のコンビニで食料などを買って新庄へ東根へ関山越えのルートで移動、仙台市内は真つ暗で、仙台市ガス局の近くはやたらガス臭かった。午後10時30分、仙台医療センターに到着。午後11時30分くらいからDMATのミーティングを行って明日以後の活動について概略を聞く。廊下にシートと毛布を敷いて横になったが、通路や階段の近くで脇を頻繁に人が通るためあまりよく眠れない。12日は仙台東部道路の若林ジャンクション上に現場救護所を立ち上げ、そこに搬送されてくる傷病者の※1 トリアージと初期診療を行った。

仙台東部道路の東側は津波のため一面水浸しで、高速道路のすぐ下まで自動車や流木、瓦礫が流れついている。12日の時点では道路の東側は水が引けておらず、ヘリコプターで救出された方を高速道路上に移動する作業が続けられた。道路伝いに歩いて来る人や、近隣の自宅から自力で出て来る人もいた。午前中に、全身が濡れて低体温のため病院へ搬送された方（この人たちはトリアージでは「黄」）

が数人出たが、その他は自力で歩ける人（トリアージでは「緑」）か、亡くなっている人（トリアージでは「黒」）に二分された。日没近く午後5時に活動終了。13日も同じ場所で活動。この日は自力歩行で救護所まで来る人も多かったが、同時に死亡確認を行う数も多く、ご遺体は仮設テントでは収容しきれず道路上に安置されていた。

14日、石巻赤十字病院に寄ってから石巻市総合運動公園へ移動し活動した。運動公園には自衛隊が救護所を設営しており、津波のため孤立した石巻市立病院からヘリで救出した人々を順次誘導していた。我々は救護所に運ばれてきた人々のトリアージなどを受けた。石巻赤十字病院がすでにパンク状態ということもあって患者の受け入れ先が石巻市内では確保できず、結局、仙台・霞目駐屯地への域外搬送が午後になってから始まった。午後には到着した別のチームに活動内容を申し送って午後4時頃活動を終了し、仙台医療センターで活動報告をしてから帰途についた。午後10時30分に病院に到着。出迎えた当院の栗谷病院長、島貫副院長や後方支援のDMAT隊員の皆さんに活動報告



をして終了。これまで、当院のDMAT隊員および日赤医療救護班で、震災直後のDMATの他にも福島県会津に3回、岩手県宮古市と宮城県気仙沼市にそれぞれ1回活動に出かけた。場所によってそれぞれ差はあるが、各地で多くの被災者がまだまだ不十分な環境下で堪え忍んで過ごしておられる。苦労はまだ続く。しかし、宮古の避難所にいた女性が「浄土ヶ浜にいらしたことはありますか？あそこはそれはきれいな所ですね。宮古はきっと立ち直りますから、復興したらぜひ見に来て下さいね。」と晴れやかな顔で話しかけてくれたことや、震災から1ヶ月が経った4月11日の午前、避難所での診察中に流れてきた宮古市民向けの定例放送で聞いた、市長の「宮古は、必ず、復興します。」という市民を鼓舞するかのような凛とした声を忘れることができない。我々も負けてはいられない。



日本海総合病院のDMATチーム

※1 DMAT

※2 トリアージ

災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム。多数の負傷者が出る災害医療などに際して救急隊員や医師が選別し、治療の優先順位をつける行為。

日本海総合病院 3階南病棟看護師長

高岡真理子

3月11日に、マグニチュード9という大規模な地震が東北関東地方の太平洋側に大きな被害を及ぼし、今も津波による行方不明の捜索が行われ、また、不便な暮らしを余儀なくされている人々が大勢いることは周知の事実である。震災直後より、日本海総合病院では数回にわたり岩手、宮城、福島、各県において医療救護班を派遣し活動を行ってきた。私たちのグループ4名は、去る4月23日から25日にかけて、福島県会津若松市周辺の救護活動を行うこととなった。現地は震災による福島原発事故の放射線被害の影響で、前任の日赤救護班が日程を繰り上げ医療



活動を中止したばかりのところであつたが、原発から100km離れたところでありニュースや日赤の情報により現地での活動は可能と判断した。被ばく測定器を持参し、4月23日朝7時に病院出発。日赤山形県支部で簡易引継ぎをおこない、日赤職員の河合氏と合流。午後0時50分には会津若松保健所に到着した。指示で新規2ヶ所の2次避難所を巡回することとなり直ちに出発。1ヶ所目は大広間にて4名を診察したが、内容は感冒・腰痛・健康相談であつた。次のところでは客室にて2名診察。内容は健康相談であり、「靱帯損傷で手術予定だったがどうしたらよいのか」、「以前と同じリウマチの治療をおこなってくれる医院を紹介してもらいたい」など、治療途中であるが震災により避難を余儀なくされた方が、見知らぬ土地での治療継続に苦労しているケースであつた。早速保健所に問い合わせ、治療継続可能な医療機関を紹介した。

2日目は、神奈川県の小児科医が合流し、一緒に温泉旅館を2次避難所とした2ヶ所を巡回、計11名の診察を行った。この日は役場で仮設住宅の説明会があり避難者がほとんど出かけてしまった。保健所からは事前に避難者には伝えてあつたが、旅館では把握していなかったため、各部屋を巡回対応したが結果は少なかった。

3日目は、ホテルを利用した2次避難所で計15名に対応。後片付けを含め午後2時までかかったため帰りが遅くなり、日本海総合病院到着が午後8時過ぎとなつてしまった。今回感じたことは、現地では桜祭りがあり土日は医療のニーズが少なかった。震災1ヶ月を経て行政の職員も疲れていて休



暇をとりたい、2次避難所の旅館職員も疲れている。また、2次避難になつてから旅館が窓口となり派遣要請しているために予定を組み立てにくくなつており、また、詳しい人数や要請内容も情報収集出来ていない等問題が出てきていた。周辺医療機関は十分に機能していたが、被災者は、医療機関に行くより巡回してくれるので処方してもらえば楽で良い等という話であり、また、内容も医療相談的な事が多かったもので、むしろ巡回は保健師チームで十分であつた。医療機関への受診は巡回バスの利用など移動方法を工夫すること、解決できるのではないかと思われ、支部に報告した。日本海総合病院では5月末の医療救護派遣を最後に終了した。



今年の4月1日から『ちようかいネット』の運用が始まりました。『ちようかいネット』では医療・福祉施設が個人情報保護機能の万全なインターネット回線により診療情報を共有します。

8月末現在、ちようかいネットの参加利用施設は40施設、患者さんは800名程度です。

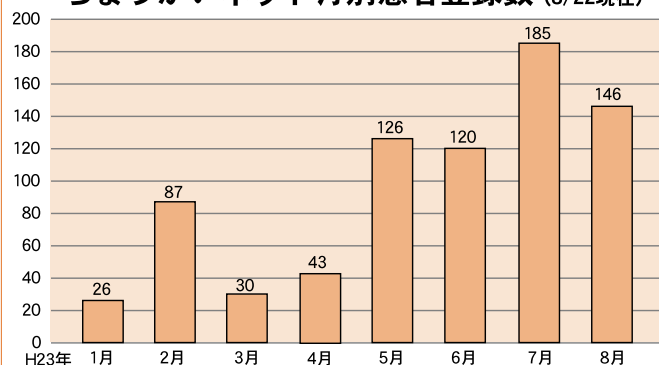
参加利用施設のうち32施設が病院・診療所ですが、この中には鶴岡地区と最上地区の医療施設が含まれており、広域的医療連携にも対応しています。

診療情報の共有は、診療の際に同意をいただいた患者さんに限定しており、また、患者さんの費用負担はありません。

受診に際して次のような効果が期待されます。

- ①参加医療施設間の一貫した方針の基での治療
- ②処方、検査の重複の防止による医療費の負担軽減

ちようかいネット月別患者登録数 (8/22現在)



地域ぐるみによる疾病管理と継続的ケアを行い、安全・安心で質の高い医療が受けられる体制の実現を『ちようかいネット』は追求してまいります。

診療所側からのちようかいネットの効果

さとう内科クリニック院長

佐藤 顕

「ちようかいネット」非常に便利に使わせてもらっています。紹介した患者さんが入院した場合、これまででは退院し紹介状の返事が来た時点で、退院したことがわかることが多かったのですが、「ちようかいネット」を使つてからは、入院の当日から状況がわかり、また、毎日の経過や検査結果も把握出来るので、入院中でも主治医のままの感覚です。それと大変助かるのが他科受診の場合です。通院中の患者さんが病院の整形外科や婦人科などを受診した場合、これまでは患者さんからその状況などを聞いていたわけですが、情報が正確な場合が多く困っていました。

しかし「ちようかいネット」を利用してからは、正確な病状や検査結果などを知ることが出来るようになり、様々な相談にも自信を持つて対応出来るようになりました。現時点でも本当に役に立つツールと言えますが、工夫次第です。今後も病院と診療所で知恵を出し合い、より良い病診連携を目指して行きたいと思っています。

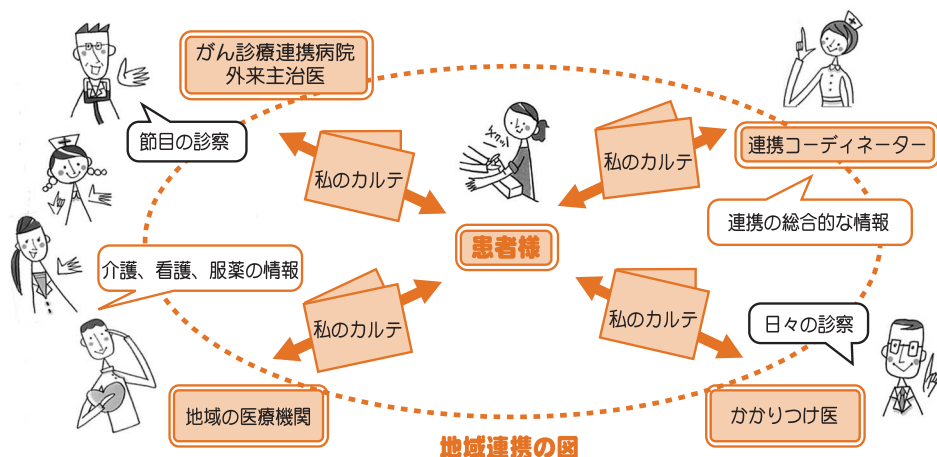
参加利用施設一覧 (H23.8.22)

No	施設名
1	日本海総合病院
2	本間病院
3	さとう内科クリニック
4	酒井医院
5	ほんま内科胃腸科医院
6	さとう小児科医院
7	石沢内科胃腸科医院
8	岡田内科循環器クリニック
9	おおたきこどもクリニック
10	菅原外科内科医院
11	吉田医院
12	あいおい皮膚科クリニック
13	本間医院
14	近藤内科循環器クリニック
15	酒田東病院
16	水戸部クリニック
17	五十嵐ハートクリニック
18	満天クリニック
19	酒田市立 八幡病院
20	池田外科胃腸科医院

No	施設名
21	諸星外科内科クリニック
22	成澤医院
23	山本医院
24	ほんまクリニック
25	上田診療所
26	介護老人保健施設うらら
27	介護老人保健施設シェ・モワ
28	さかい往診クリニック
29	影沢内科医院
30	高木整形外科クリニック
31	眞田医院
32	渡邊クリニック
33	山形県立 新庄病院
34	順仁堂 遊佐病院
35	鶴岡市立 荘内病院
36	健生ふれあいクリニック
37	酒田地区医師会訪問看護ステーションスワン
38	かもめ薬局
39	ひまわり薬局
40	ラバス酒田南店

あなたを支える
地域連携クリティカルパス
病院に通院する人も
近くのかかりつけ医をもちましよう

日本海総合病院では、患者さんにわかりやすく、安全で質の高い医療を目指して地域の病院や診療



地域連携の図

所と協力して「地域連携クリティカルパス」を活用しています。

今回、大腿骨頸部骨折連携パスについてがん診療連携拠点病院の役割として5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)の地域連携パスがスタートしました。「がん地域連携クリティカルパス」は、患者さんに納得していただいたうえで、患者さんも含め、医師・看護師・薬剤師等が共同で利用できる診療体制、スケジュールを記載した表です。この表に基づいて主治医が2人になり、協力して診療を行います。

「地域連携クリティカルパス」の利点は？

患者さんの主治医が複数になり、異常の早期発見やきめ細かな対応が望めます。病院や診療所の混雑が解消される効果も望めます。関係する連携医、患者さんやご家族と相談しながら運用を進めますが、変更・中止の申し出にも応じます。

「私のカルテ」の使い方は？

ご自分の身体の状態を2人の医師に知らせるために活用します。日本海総合病院、連携医を受診するときに持参してください。患者さんの状態や思いは、「私のカルテ」を通して情報交換を行います。

地域連携のフローチャート

入院中に、今後の医療連携についてご相談

入院・治療

退院

連携開始

●日本海総合病院の主治医

- * 地域連携について説明
- * 退院前に連携先医療機関についてご相談させていただきます。
- * 退院後の日本海総合病院の外来予約

●連携コーディネーター担当者

- * 患者さんの状況を考慮したコーディネートを開始
- * 退院後の連携の具体的なスケジュールを説明

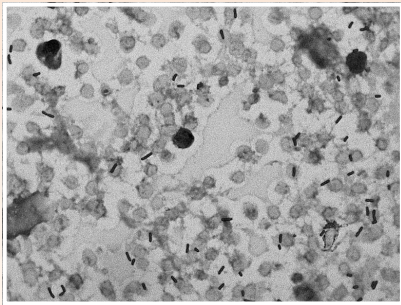


地域連携パス活用により
期待される効果

日本海総合病院 地域医療室
看護師長 高橋満知子

地域連携クリティカルパスをご存知でしょうか？病院と診療所が一緒に治療にあたるための共同診療計画で、このたび「ちようかいネット」でも情報共有できるようになりました。地域連携パスを利用することによって、連携する医療機関でも計画的な治療を受けることができます。患者さんは複数の主治医を持つことになりましたが、医師間で情報がきちんと共有されますし、何より患者さんが自分の治療に見通しが立ち、安心して療養することができます。また最近では、地域連携パスの役割が介護施設や在宅医療にまで広がってきました。検査や治療計画だけでなく、看護や介護の情報を連携することで、一人の患者さんが総合的に支援を受けられるという点で非常に大きなメリットがあります。地域連携パスがより良いものになるように、皆様と協力し育てて行きたいと思っています。

感染症



食中毒を起こす大腸菌

まだまだ「用心食中毒」

細菌やウイルスなどの病原微生物が付着した食品や有毒・有害な物質が含まれた食品を食べることによって腹痛、下痢などの症状が起こることを食中毒と言います。今回は、食中毒について感染面と栄養面から気をつけることをご紹介します。

病原微生物にはノロウイルス、サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、黄色ブドウ球菌、病原大腸菌などがあります。まだまだ暑い日も続きますので、食中毒の発生には、注意が必要なのは皆さん、ご承知のことと思います。

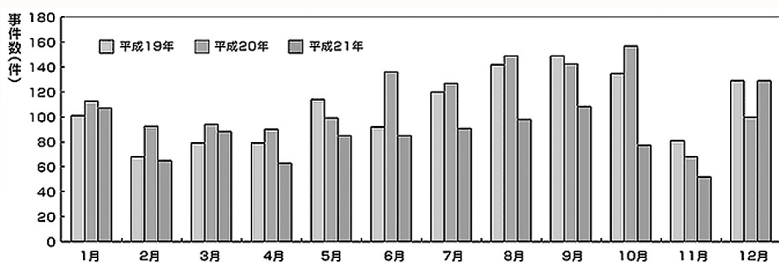
今年、腸管出血性大腸菌による集団感染が報道され不幸にも亡くなられた方もおられ食中毒の怖さを改めて知らされたところです。

腸管出血性大腸菌は牛などの家畜や人の糞便中に時々見つかり、家畜の場合症状を出さないことが多いといわれています。

人に感染した場合は全く症状の出ない人から軽症で済む場合、さらに下痢腹痛の後に血便・重篤な合併症を来とし死に至る場合もあるなど症状に幅のあるのが特徴です。合併症は溶血性尿毒症症候群（HUS）といわれ、体の中に血栓（血の固まり）ができ腎臓を中心に臓器障害を来たす非常に重篤な疾患です。

このように怖い細菌ですが加熱、消毒薬により死滅しますので他の病原菌と同様の食中毒対策を確実に実施することが可能となります。

内科部長
齊藤 宗一



家庭でもできる食中毒予防

食中毒というと飲食店での食事が原因と思われるがちですが、家庭の食事でも発生しています。次のポイントに気をつけて食中毒を防ぎましょう。

① 買い物をする時

- 肉・魚・野菜などの生鮮食品は、消費期限を確認し新鮮なものを購入する。
- 冷蔵・冷凍が必要な食品は買い物の最後に購入する。

② 食品を保存する時

- 冷蔵・冷凍が必要な食品は、すぐに冷蔵庫や冷凍庫にしまう。

③ 下準備の時

- 作業の前や、肉・魚・卵を扱った後には必ず石けんで手洗いを。
- 生の肉や魚を切った包丁やまな板で他の食品を調理しないで、使用後すぐに洗剤でよく洗う。
- 包丁・まな板・ふきんなどは熱湯や漂白剤で消毒する。

④ 調理の時

- 作業に入る前には必ず石けんで手を洗う。

○ 加熱する食品は中心部まで熱を通す。

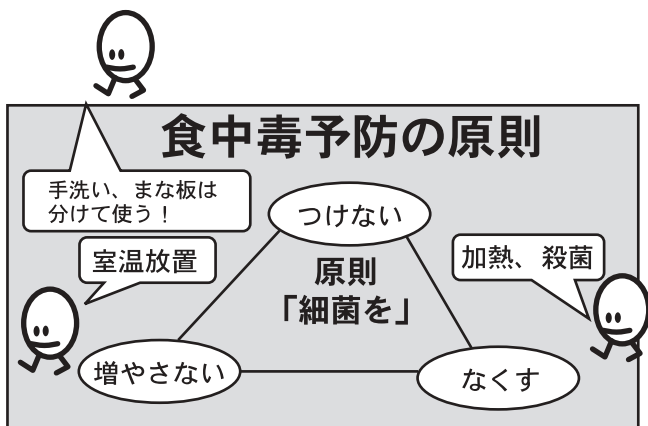
⑤ 食事の時

- 清潔な手で、清潔な器具を使い、清潔な食器に盛り付ける。
- 食品は室温に長く放置しない。

⑥ 食品が残った時

- 残った食品を温めなおす時も十分に加熱する。
- 時間がたち過ぎたり、ちよつとでも怪しいと思ったら、思い切つて捨てる。

食中毒予防の原則



医師異動のお知らせ

①前任地
②時間があったらやりたいこと

《日本海総合病院》



循環器内科
菅原 重生
①東北厚生年金病院
②のんびりドライブ旅行



循環器内科
桐林 伸幸
①山形大学医学部附属病院
②子供と遊ぶ、ランニング、トレーニング



循環器内科
齋藤 博樹
①山形大学医学部附属病院(研修医)
②スノーボード、サッカー、温泉



消化器内科
折居 智彦
①山形大学医学部附属病院
②温泉旅行



消化器内科
小林 敏一
①日本海総合病院(研修医)
②時間を気にせず読書をした



精神科
三浦 裕介
①山形大学医学部附属病院
②麻雀



小児科
安孫子 優
①日本海総合病院(研修医)
②今年こそ飛鳥、国内外の観光地めぐり



外科
石山廣志朗
①酒田市立八幡病院
②スキー



外科
宮下 穰
①東北大学医学部大学院
②気まぐれな海外旅行



外科
柴田 健一
①山形大学医学部附属病院
②自転車ツーリング



呼吸器外科
鈴木 潤
①鶴岡市立荘内病院
②バスケットボール



心臓血管外科
宮崎 良太
①山形大学医学部附属病院
②ドライブ、映画鑑賞



形成外科
加藤 秀輝
①山形大学医学部附属病院
②ドライブ、ボーリング



整形外科
佐々木淳也
①県立中央病院
②娘の部活観戦



整形外科
山川 淳一
①丹心会吉岡病院
②海釣りに行きたい



産婦人科
早坂 直
①県立新庄病院
②家族と旅行に行きたい



放射線科
高梨 俊保
①酒田医療センター
②大と、緒にドッグランに行きたい



放射線科
矢萩 淑恵
①日本海総合病院(研修医)
②旅行



泌尿器科
菅野 秀典
①山形大学医学部附属病院
②F1観戦



歯科口腔外科
吉田 孝史
①山形大学医学部附属病院
②釣り



内科
本田 陽子
①本間医院(産) ②親知らずを何とかしたい、でも覚悟がない

◆転出者(①新任地)

《日本海総合病院》

内視鏡内科 大久保 俊一
①市立千歳市民病院

消化器内科 赤松 学
①公立置賜総合病院

消化器内科 今村 恵
①鶴岡市立荘内病院

循環器内科 成味 太郎
①山形大学医学部附属病院

循環器内科 門脇 心平
①山形大学医学部附属病院

外科 矢野 充泰
①山形大学医学部附属病院

外科 伊藤 正裕
石巻赤十字病院

外科 坂井 庸祐
①開業さかい往診クリニック

小児科 高橋 辰徳
①山形済生病院

精神科 池谷 龍一
①新庄明和病院

産婦人科 池田 美智
①山形大学医学部附属病院

整形外科 諏訪 通久
辰星会 枳記念病院

整形外科 原田 幹生
①丹心会 古岡病院

整形外科 内海 秀明
①山形大学医学部附属病院

心臓血管外科 中嶋 和恵
①公立置賜総合病院

泌尿器科 八木 真由
①山形市立病院済生館

歯科口腔外科 山ノ内 秀之
①山形大学医学部附属病院

《酒田医療センター》



病院からのお知らせ



酒田医療センター増改修工事

工期：平成23年4月～平成25年3月

- ◎平成23年4月～平成24年6月
療養病棟改修、リハビリテーション科改修、
訪問看護ステーション改修、増築棟増築
- ◎平成24年7月～平成25年3月
エントランス棟増築、西棟解体

平成24年7月には改修棟及び増築棟を使用して一部開院し、工事が完了する平成25年4月には新たな酒田医療センターとしてスタートする予定です。平成24年7月までは正面入口からの出入しかできません。また、駐車場が少なくなっていますのでご不便をおかけしますが、ご協力をお願い致します。



完成予想図

「認知症疾患医療センター」開設

もの忘れや認知症にもいろいろな症状があります。また、認知症のように見える症状であっても、実は別の病気から起こっていることがあります。

認知症は早期に発見し治療することが大切です。早期に治療することによって、次のようなことがあります。

- ①認知症は早期に発見し、服薬によって進行を遅らせることが出来る場合があります。
- ②認知症の症状があっても、実は身体の治療や手術によって改善可能な病気である場合があります。
- ③妄想や興奮、不眠などは、ご家族にとってもつらい症状です。服薬で軽快することもあります。

《ご利用案内》

当センターのご利用は**予約制**となっております。予約の受付時間は、以下の2通りありますので、いずれかの方法で予約の受付を行って下さい。

なお、受診の流れなど詳しいことに関しては、当院ホームページをご覧ください。

*医療機関からの予約受付

- ①インターネットによる診療予約申込
(ユーザー登録をされている医療機関に限る)
- ②電話による予約申込
受付時間 9:00～16:30
電話番号 (0234) 26-5150 (紹介予約コーナー)
- ③FAXでの受付は行っておりません。

*ご本人・ご家族さまからの予約受付

受付時間 8:30～15:00
電話番号 (0234) 26-2001 (代表)

※ちょうかいネット開設記念特別講演会のご案内※

「シームレスな医療・介護 連携ネットワークの実現」

～地域見守り型サービスの創出～

講師 社会医療法人 高橋病院 (函館市)
理事長 高橋 肇氏
法人情報システム室長 滝沢 礼子氏

- 日時：平成23年10月8日(土) 15:20～17:45(受付15:00～)
- 会場：ガーデンパレスみずほ (入場無料)
- 主催：酒田地区医療情報ネットワーク協議会、山形県庄内保健所
- 申込方法
事務局にお問い合わせください。

酒田地区医療情報ネットワーク協議会事務局
(山形県・酒田市病院機構 法人管理部内)
TEL:0234-26-2001(代表) FAX:0234-26-5114 担当 新橋・富樫
ちょうかいネットホームページ <http://www.nihonkai-hos.jp/choukai-net/>

げんきGO (病院間シャトル運行)

時刻表

酒田医療センター	日本海総合病院	日本海総合病院	酒田医療センター
発 8:30	着 8:45	発 8:55	着 9:10
9:20	9:35	9:45	10:00
10:10	10:25	10:35	10:50
11:00	11:15	11:25	11:40
11:50	12:05	12:15	12:30
12:40	12:55	13:05	13:20
13:30	13:45	13:55	14:10
14:20	14:35	14:45	15:00
15:10	15:25	15:35	15:50
16:00	16:15	16:25	16:40

編集後記

「あきほ」第10号の発行については、当初予定より大幅に発行が遅れ、ご迷惑をお掛けしたこと、深くお詫び申し上げます。これからも、病院の情報を地域の皆様に発信していくことをスタッフ一同猛省し、頑張っ参りますので、よろしくお願いいたします。(池田)

広報誌「あきほ」 第10号 平成23年9月(季刊) 発行部数：2,500部

編集発行 ● 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 広報企画委員会(事務局：法人管理部)
〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30番地 TEL:0234-26-2001(代表) FAX:0234-26-5114
URL: <http://www.nihonkai-hos.jp/> E-mail: kanribu@nihonkai-hos.jp
印刷 ● 株式会社小松写真印刷